

# 内科・糖尿病内科 担当医師 井口昭久教授の随筆が掲載されました。

( 名大医学部学友時報 第737号 2011年6月22日発行 )

人生  
山あり谷あり

## 第6回 「青春時代」

名古屋大学名誉教授  
愛知淑徳大学教授

いぐち あきひさ  
井口 昭久

この頃我々の青春時代の歌の番組が増えてきた。視聴者に占める高齢者の比率が増えてきたのであろう。本格的な高齢社会がやってきた。

昔の人が昔の歌を歌っている。メロデーは覚えているが、歌手の容貌は40年前の人とは別人に見える。

「青春時代は夢なんて後からしみじみ思うもの。青春時代の真ん中は、道に迷っているばかり」という歌が40年前に流行った。青春とは辛いものだ。あんな時代は二度と経験したくないと続く。私も青春時代へ戻りたいとは思わない。

あの頃は、身のうちにある「不確実性」と、友達と自分の「情緒不安定性」に手を焼いていた。二度と戻りたくはないが、あの頃の体に戻していただければありがたい。

青年期の肉体は、そろそろ成長のプロセスの終焉に当たり、潜在的には老化も始まっている。成長と衰退の織りなす微妙な平衡状態が青年期のボディである。その頃が人生で最も美しく見えるのが生物である。

私の脳にはあの頃の歌手の静止画像が貯蔵されている。

静止画像が連続するのが映画の原理であり、私たちの知識の基本である。連続しないと忘れたことを忘れてしまう。40年間途絶えていた画像に出会うと、見ていたはずなのに見たことがないと脳がとまどう。

車は古くなっても昔の面影を残しており、スカイラインはスカイラインでそのままに古くなる。人の顔は車種が変わった

かと思うほどに変化する。時代を並走せずに、久しぶりに出会うと、スカイラインがトラックに変わったほどに見える。

1977年のRossmanの論文によると、顔全体の長さは30代まで増加するがその後減少するそうである。いくつかの体の指標の変遷を調べている。例えば、鼻の幅は生涯を通じて広がり続けるが高さは59歳まで高くなってそのまま高止まりする。

車の部品は同じ速度で劣化していく。人間の体は各パーツが独自の変化速度を持っている。

臓器が独自に変化して全体を統率する部門がない。鼻と唇と目の老化を同じ速さで引率してくれる教師役の遺伝子がいない。今の政治に似ている。

総論が大事か各論が重要かということになるが我々は人体を総論で観賞している。

各論で付き合いえば物語の筋道は異なるが、鼻と鼻で付き合い合うということはない。唇と唇で付き合い合うこともない。あったとしても人生の中でホンの短い期間であり、多くの人は人数に限りがある。

人は目と目で確かめあって生きているので、じっと相手の目を見つめれば、あの時の顔が蘇る。脳の奥底に貯蔵されていた画像が霧の中から微かに蘇る。目は各論が総論に繋がる窓である。

じっと見つめ会うと、古びたトラックが中古のスカイラインに変わる。